

ICAO Global Aviation Security Symposium 2018 (AVSEC2018) 及び Second High-level Conference on Aviation Security (HLCAS/2) に参加して

AVSEC2018 (2018年11月26日～28日) 及びHLCAS/2 (2018年11月29・30日) は、ICAO本部 (カナダ・モントリオール) において、各国の代表者約700人、産業団体、ICAO及びメディアから50人超が参加し、開催された。日本の代表団は、国土交通省航空局安全部と空港関連の企業の方であった。各国の代表は、航空安全に関する専門家が参加されているようであった。

会場は、各国はアルファベット順に席が指定され、ICAOの6つの公用語の同時通訳で進められた。

今回、筆者はICCAIA (International Coordinating Council of Aerospace Industries Associations) のセキュリティ委員会メンバーとして、参加したので、以下に報告する。

1. AVSEC2018

当該シンポジウムは、インダストリーデイと同時並行のワークショップが初日に開催され、後の2日間で各テーマのパネルディスカッションが開催された。参加できなかったワークショップを除いて、概要を次に示す。

(1) インダストリーデイ

次の4つのセクションに於いて、セキュリティに関するテーマでパネルディスカッションが実施された。

S1. 効果的かつ効率的なスクリーニング技術を開発・導入するための政府と産業



図1 会議の様子

界の重要課題

- S2. 技術とプロセスを用いた、ICAO、国や地域、産業界の航空脅威に対するに効果的な対処
- S3. チェックポイントにおけるストレスを軽減するためのセキュリティスクリーニングのあり方
- S4. デジタルリーダーシップによる輸送における技術革新

上記のS1～S4のパネルディスカッションのサマリーを、次に示す。

現在のスクリーニングプロセスは、脅威エージェントに予測不可能な方法で、禁止されたアイテムをスクリーニングする方法をとっている。旅行者の増加傾向において、空港のセキュリティスクリーニングは旅行者にストレスを与えており、新たな脅威や進化する脅威に対処する技術はこのストレスの軽減を考慮する必要がある。今後15年を対象とするビジョンは、乗客、空港勤務者、乗組員、空港のインフラストラクチャー担当者を効果的にスクリーニングすることを目的に、最新技術や最新情報を取り込んだ効率的なスクリーニングを行うことである。スクリーニング技術は、将来的に人間が通過するセキュリティトンネルを可能にするスキャナー技術に、より多くの機能（3D画像のCTスキャナーなど）を追加するなど、改善を積み上げる必要がある。

(2) テーマごとの会議

航空安全保障共同体の上級指導者が、民間航空に対する脅威に対抗する現在の課題について議論する会議であり、グローバル航空安全保障計画（GASep：Global Aviation Security Plan）の目標を達成し、国連安全保障理事会決議2309（2016）を達成するための協力を広

く関係者に呼びかけることに重点が置かれていた。

会議は、次のテーマに着目し、実施された。

- a. リスクに対する意識
- b. 安全保障に関する文化
- c. 技術とイノベーション
- d. 品質管理と監督
- e. ICAO GASep実施に伴う基盤構築
- f. GASepの実施に伴うグローバルな航空安全保障の枠組みの提供

この会議の出席者は、主にACI（空港）、IATA（航空会社）、CANSO（航空会社のパイロット）、ICCAIA（産業）、その他の国際貿易を含む少数の業界団体を持つ国連加盟国の代表と報道関係者である。プレゼンテーションは、上記の着目点に焦点を当て、空港間の情報共有を改善する方法、乗客、荷物および貨物のスクリーニングを改善するための技術強化に関する内容であった。

会議場の外にバンダーのブースが設営され、主に旅客スクリーニングのための設備ソリューションを提供する荷物検査会社で構成されていた。その中でも、中国企業NUCTECHは、レセプションのスポンサーであり、マーケティングにおいてかなり積極的な活動が窺えた。NUCTECHは、スクリーニングでは比較の後発であり、人工知能と3次元イメージングを使用して精度を向上させ、スクリーナーの疲労を軽減するソリューションを強調していた。

2. HLCAS/2

当該会議は、政府や団体が事前に登録した者に参加が制限され、次に示すアジェンダに関連する32通のワーキング・ペーパーに関する議論が実施された。議論は、ワーキング・ペーパーごとのパネリストによるプレゼン

ーションに引き続き、ワーキング・ペーパーの担当国から状況報告する形式であった。

A-1 航空安全におけるグローバルな取り組みの現状

A-2 航空安全における地域の取り組み状況

A-3 航空安全保障の脅威とリスクの状況

A-4 航空安全上のリスクを管理するための今後のアプローチ

A-5 グローバル航空安全保障計画（GASeP）

A-6 他の地域とのより良い相乗効果の達成

ICAO事務局長Dr.Fang Liuから、国の概念を取り除いた世界が一丸となり、航空宇宙分野を改善することが重要である旨、発言があった。地域の取り組みでは、資金的に潤沢でない国々が、貨物のスクリーニングを改善するための例として、アフリカの空港フェンシングなど、インフラストラクチャーの改善の例が含まれていた。航空安全保障の脅威に関する議論の中で、スクリーニング対象の乗客が、銃器やその他の禁止物質の密輸など禁止事項を、空港や航空の会社の人員に委託し、脅威になる可能性について解説があった。この脅威と戦うために、まずは、全空港労働者を100%雇用する必要があるとの説明があった。

アラブ首長国連合（UAE）を主担当とするワーキング・ペーパー23（中東グループの第6回ミーティング開催）の結果として、RASG-MID（Regional Aviation Safety Group - Middle East）ハンドブックの利用規約の改定及びファストトラック手順を合意できたことが報告された。

TSA管理者David Pekoske氏が米国代表団を率いて、サイバーセキュリティ対策の優先順位を定義したサイバーセキュリティロードマップ（一般公開12/4/18）を公開したことを強調した。

ブラジルは、すべての利害関係者（政府および産業）から、協力と資金提供により、GASePの遵守体制の整備が非常に前進したと述べた。

特にスクリーニング装置に焦点を当てた革新的な技術（AI利用など）は、乗客と貨物のスクリーニングの改善に関する非常に重要な要素であることが議論された。

欧州理事会（ACI）は、欧州連合（EU）内の空港間において情報共有の著しい改善が報告され、全加盟国に対して、情報共有の重要性を強調した。

各国を同じ基準にするか、脅威とリスクアセスメントに基づいて国や空港に柔軟性を持たせるかについて、参加国間で議論が行われた。フランスはテロの被害者であり、防護措置の強化に取り組んでおり、単一のガイドラインにより彼らの脅威への対処能力を損なう可能性があることを指摘した。

2日間の会議の議論、結論及び勧告については、ICAOのホームページにアジェンダごとに記載されている。（図2にレポートの所在を示す。）

特に、国際的なテロリズムやセキュリティに関する脅威を認識し、継続した対策に取り組むに当たり、ICAOのグローバル航空安全保障計画（GASeP）を推進し、運用に固有な規範、信念、価値観、態度、脅威の想定などセキュリティカルチャーを定着させる。そのために、国家を超えた協力体制を確立し、セキュリティに関連する共有リソースを活用した情報共有を促進する。促進に必要な組織、規約・基準、ITシステム、教育などを業界一丸で取り組むことを提唱している。



<https://www.icao.int/Meetings/HLCAS2/Documents/SECOND%20HIGH-LEVEL%20CONFERENCE%20ON%20AVIATION%20SECURITY.EN.pdf>

図2 HLCAS/2レポート

3. 所感

今回の会議では、航空機の製造業に関連するサイバーセキュリティの議論はクローズアップされず、各議論の行間に埋もれたと感じる。

増大する航空機利用者に、安全、時間的な効率（スクリーニングの効率化）かつ妥当な料金を提供することが主テーマであり、ICAOが国際レベルで航空安全政策のリーダーシップの役割を担っていることが十分に理解できる機会であった。身近な成果として、機械読取旅券（MRTD：Machine Readable Travel Document）によるスムーズな入出国が可能になっていることが一例と言える。

ICAOセキュリティのベースは、シカゴ条約付属書17（通称ANNEX17）であり、変化／進化する脅威に対して、ガイダンス資料（航空セキュリティマニュアルDoc 8973など）を

維持し普及することで、ANNEX17の実施を推進している。

また、ICAOのセキュリティ委員会（SSGC：Secretariat Study Group on Cybersecurity）が、全てのサイバーセキュリティ作業の中心となり、検討すべき分野の策定、検討テーマと検証結果の検証を実施すると聞いている。

ICAOのサイバーセキュリティの指針や決定事項を受け、製造業に対する要求の実現をICCAIAのサイバーセキュリティ委員会で議論しており、当工業会もこの委員会活動に参加している。

引き続き、当工業会は、ICAOを中心としたサイバーセキュリティに関する議論に参加しながら、会員企業の参画が必要と判断した機会に、委員会を発足することを業界に提案する。

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 技術部 部長 火口内 恵一〕